

分科会の記録 <第3分科会 教育環境整備に関する課題>

【提言者3】佐賀県 佐賀市立久保泉小学校 浦元 奈美

【提言主題】児童生徒が安全・安心な学校生活を送ることのできる環境整備に係る取組
— 防災体制づくりの視点を通して —

【協議の柱】地域の特徴に即した防災体制づくりにおける地域・行政と副校長・教頭との関わり方について

【グループ協議 報告】

- ・子どもたちの防災意識（危機回避能力）を高めていくことが大切だ。避難訓練においては、教師の意識を変えるとともに、教師が整然と取り仕切る訓練から、子ども自身が考えて行動する訓練にかえていく。また、地域・行政と連携を図りながら取り組むことが大切である。
- ・石巻に学校があり、東日本大震災を経験し、1000人が学校に避難した。防災に対して地域と協力して、地域で避難訓練に取り組んでいる。
- ・阪神淡路大震災を経験していない若手教員も増えてきており、若干の意識の低下を感じている。
- ・防災に対する意識は、東日本大震災により高まった。しかし、少しずつ風化する傾向にあることが懸念される。東日本大震災の際には、最後の子どもを引き渡したのが午前12時だった。現在も震災救援所訓練を行っており、地域の方が避難したときに、学校がどのような対応・運営をしていくのかを訓練している。
- ・防災支援のボランティアを講師に招き、中学生に対しての防災教育を行なっている。小中一貫校なので災害時の中学生の役割について考えさせた。
- ・町づくり協議会との共同で引き渡し訓練を行ったが、1000人の保護者が車で来て大混乱になった。その反省をもとに計画の見直しを行い、町づくり協議会との協力体制を強化し改善を図った。
- ・地域防災に関しては、地域が主体になってほしいのだが、地域と学校の役割の位置づけが課題である。
- ・災害に対する日頃の備えが大切である。鹿児島は桜島もあり防災教育は充実している。火山訓練やハブ訓練等、地域の実情に応じた訓練を行っている。

【指導助言：全公教顧問会】（徳島県上板町立高志小学校長 中川 斉史 氏）

- ・風水害と津波（地震）は、準備の性質が異なる。風水害は、雨の状況や天気予報で、ある程度の予想ができるので対応策を練るまでに少し時間がある。津波や地震は突然起こるので、緊急の対応が求められる。
- ・正常性バイアスについて…緊急地震速報等があっても「自分は被害を受けないだろう」と楽観的な観測を持つことが大きな被害を招く危険性がある。
- ・地域の中での避難訓練について…様々な取組がある。親子で危険箇所点検、子どもの自己紹介、避難所体操、保護者がマイクで自分の子どもを呼び出す引き渡し訓練など。地域の中で各種団体が互いの顔を知っていることが有効に働く。
- ・職員がタブレットPCを使って、通学路の被災状況を報告する活動をする。情報を共有し報告と同時に被災マップとして表す。デジタル＋手書きによるスピーディーな情報共有。児童の引き渡し訓練で、引き渡しの状況をLINEを使って情報を流し、同時に情報共有を行う。各学校の状況を考慮して、リアルタイムの情報共有の方法を工夫することが大切である。

○まとめ

- ・山間地域と沿岸地域では自然災害の状況は異なるが、異なる地域で起こる災害に対しても対応できる知識を子どもたちに身に付けさせることは大切である。

【指導助言：佐賀県】（佐賀県東部教育事務所教育指導監 石井 博善 氏）

○「継続性」について

- ・台風や大雨等の自然災害に対する地域や周辺環境・学校規模に応じた防災体制づくりは必要不可欠である。全ての学校において、大雨や土砂災害、地震、津波、台風、落雷等天変地異への緊急対応、避難所の開設、児童生徒への防災教育、安全安心な学校生活を送るための安全教育の充実を図り、危機意識を高く持って対応することが必要である。
- ・防災教育について、危険、危機に対して予知する能力と安全に回避する能力の育成を、学校の地域性に応じて継続した取組を行っていく必要がある。

○「協働性」について

- ・地域・保護者の意識高揚と学校との連携強化、市町行政機関との連携による防災訓練や防災マニュアル作成、学校における小中連携や安全管理と安全教育の実施、という点で協働性が見られる取組であった。
- ・防災体制づくりに向けて、市町行政は避難所開設時の対応マニュアルの作成、地域では学校での引き渡し訓練や研修会への参加、学校では緊急時対応の見直しや防災体制づくりへの着手、児童生徒への防災教育の充実等、安全、安心な学校づくりに向けて協働性が見られた。

○「関与性」について

- ・地域・保護者、小学校と中学校、県や市町の行政などつながりを持つために副校長や教頭の様々な形で働きかけが見られた。今回の取組は、佐賀大会研究協議の視点にある「魅力ある学校」をつくっていくという大会主題に迫るものであった。